

デジタル化推進特別委員会記録

令和4年1月12日

【開催日】 令和4年1月12日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前11時～午前11時40分

【出席委員】

委員長	伊場 勇	副委員長	恒松 恵子
委員	白井 健一郎	委員	藤岡 修美
委員	前田 浩司	委員	山田 伸幸

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	高松 秀樹	副議長	中村 博行
----	-------	-----	-------

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

事務局長	尾山 邦彦	事務局次長	島津 克則
------	-------	-------	-------

【審査内容】

1 今後の取組について

午前11時 開会

伊場勇委員長 ただいまから、デジタル化推進特別委員会を始めます。付議事項の今後の取組について協議したいと思っております。まずは、デジタル化についての課題をそれぞれ出し合っていただきながら、最終的に一定の方向性を導き出していきたいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。それではデジタル化について、議会でのデジタル化、行政、そして市民サービスのデジタル化等がありますが、課題について意見を出し合っただけならというふうに思いますので、お願いします。

藤岡修美委員 デジタル化に行政も取り組んでいますし、市議会もこれから取り組んでいかなければならないと考えております。私が所属しております

す産業建設常任委員会でのデジタル化の動きとして、今年度の予算で言えば、地図情報システムの構築事業とか、防災気象システムの導入事業、それから交通系のICカードの導入事業、ドローンは農業団体の補助金だったと思うんですが、ドローン購入の補助金等、行政においてもデジタル化の動きは出てきております。先日、NHKのニュースでやっていたんですけども、取手市では、市議会事務局長がベテランで、議会のデジタル化がかなり進んでいて、例えば、昨今の新型コロナウイルス感染症等で、議員が自宅から委員会に参加できたり、本会議も検討したりしていて、本会議を開催できるように国に要望を上げているという例もあります。当面、議会としたら、感染症とか災害もあるんですけど、そういう形で自宅から委員会なり、本会議なりに参加できるとか、女性議員等が諸事情で参加できないときも、自宅から参加できるとか、そういう仕組みづくりがこれから求められるのではないかなと私は考えます。

伊場勇委員長 仕組みづくりについて、今から必要じゃないかということですね。

白井健一郎委員 今日、何のために私たちが議論しているかと言いますと、まず議会のデジタル化、その先にあるDX、便利になっていくということですね。そのことについて少し述べますと、議会では紙が非常に多いんです。タブレットを使って、それをペーパーレス化するということがあります。それから議会内で議論するときに、分からない単語が出てきたら、その人たちが議論から脱落してしまいますから、そうならないようにタブレットで検索ができるというメリットもあります。それで非常に議会の質が高まったという他市の報告もあります。そういう議会のデジタル化、DX、それに加えて、行政のデジタル化、DXに対して、議会としては行政の監視機能といいますか、提案機能など様々なことがありますから、そのために、私たちは行政で何が行われているのか、しっかり見てみようじゃないかという試みもあります。あと行政が行っていることで、市民生活の中で、どんどんデジタル化が進んだり、その先のD

Xが進んだりということもあります。それも、私たちは学んでいきたいと思っています。ちょっと大きっぱですが、こんなものだと思います。

伊場勇委員長 課題として、白井委員としてはまずはペーパーレスですか。

白井健一郎委員 私たちも当然時間の制約がありますから、まず自分たちの議会でのペーパーレス化とか、先ほど言ったような議会内でのタブレットの導入、これは先進地の例を見ると、タブレットを導入しているところもかなりあるらしいです。ですから、そういうのを目指すことです。時間の関係でどこまでできるか分かりませんが、あとは提言とか、監視すべき行政がどこまでDXを進めているかということについて、学びたいという気持ちもあります。

山田伸幸委員 先日、デジタル推進室から話を聞いたんですけど、民間でいうと、これほどの書類を抱えて会議をすることはあり得ないというふうに言われておりました。私たちの現状がどうかと言ったら、議案書、それに基づく資料、更には、自分で集めてきた資料を山のように抱えて委員会に臨むというスタイルが定着をしているんですけど、それらを全て省力化できるような、そして、議会の議論に役に立つような仕組みづくりが必要なのではないか。先ほどからタブレット化というふうに言われておられますが、本当にそれが生きたものでなければならない、市民サービスの向上のために、それを使えるような議会でなくては意味がありませんので、どのようにしたらそれが有効に機能できるのか、まずそこを議会として取り組んで、今度は提案できるような議会づくりをする必要があると思っています。この近隣でタブレットさえも導入していないのは本市だけというような状況になっています。逆に言うと、後発の良さ、一番良いシステムが取り入れられるというメリットもありますので、各市町の取組状況なども調査することも必要ではないかというふうに思います。それと、本市の教育委員会で子供たちに与えられているクロームブックですね。これが先進と言われているのかについても、子供たちが

どのように活用しているのかということも、議会にそれがきちんとフィードバックできればいいですけど、そういったことも今後調査をしていく必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

伊場勇委員長 今の課題としてはどういうところなのかを具体的に教えてもらっていいですか。

山田伸幸委員 課題としては、たくさんのペーパーを抱えての議会の在り方を、そろそろ見直す時期であろうというふうに思います。

恒松恵子副委員長 今回デジタル化推進委員会ができることにより、来るべき議会のICT化に備えて、議員間の情報機器に関するレベルは、それぞれまちまちですので、このような議論が進むことで、議員が取り残されてはいけないとか、利用について研究を進めることも一つの意義があるんじゃないかなと思っております。

前田浩司委員 各議員の情報の共有化ということでいきますと、基本的には、タブレットでの情報を介して、特に地域の住民へのサービスのことを考え、タブレットを持って、市の行政の内容についても、しっかり市民の方に納得いただけるような説明も可能になっていくのかなと思います。議員の知識もタブレットを使うことによって身に付けられて、市民皆さん方に納得できるような話もできるんじゃないかなということでは、このタブレットの導入は最優先に考えていかないといけないことかと思っております。

伊場勇委員長 皆さんから頂いた意見では、ペーパーレスというキーワードがあるのと、議会としてタブレットということですね。課題として、ペーパーレスにしっかり取り組むべきと私も思っております。しかし、行政サービスとして、市民に対して、ペーパーレスというところも一つあるかもしれませんが、もうちょっとまちづくりとかいう観点で、デジ

タルがどういった役割を果たしていくのか、そこにどういった課題があるのかというところも課題として出してほしいなというところがあります。行政サービス、市民サービスについて、デジタル化がどういった有効性を出していくのかというところを話し合いたいと思います。まちづくりについてデジタル化がどう役立つかをお願いします。

山田伸幸委員 今、問題になっているのは個人情報保護との関連ですけれど、そこも乗り越えながら、様々な行政サービスがデジタル化されていく。例えば今、いろんな申請書を出すにしても、PDFでダウンロードして、それに書き込んで提出というようなことが多々あります。それから解放されることや、あるいは、福祉事務所なんかは市民のところを訪問した際に、いろいろ紙に残しているんです。それをデジタル化して、独特な言い回しじゃなくて、共通化された言語で、誰が見ても、その市民がその地域で取り残されないように、情報を共有した上で、対策に乗り出していく。特に、私たちが地域で住んでいて思うのは、孤立したお年寄りをなくしていくということで、非常に頭を悩ませているんですけれど、そういったところもきちんとデータとして保有をした上で、災害だとか、感染が広がったときなんかはきちんと対応できるようなシステムづくりにも、議会として提案できるようにしていかななくてはいけないのではないのかというふうに思います。

伊場勇委員長 市民サービスのためにもペーパーレスが必要なんじゃないか。簡素化する必要がある。そのほうが市民の手間も減りますという意見がありました。そのほかに何かありませんか。

白井健一郎委員 先ほど私は、議会のデジタル化と行政のデジタル化を分けて考えましたが、もちろん議会というのは、行政から離れて成り立つわけがありません。デジタル化によってどういうものが行政サービスとして進むかということで、たまたま私が今朝の公明新聞の視聴欄を見てありましたので、そこからちょっと抜き出しますと、例えば市民生活にはオ

ンラインによる遠隔医療とか、遠隔教育とか、高齢者向けの自動運転移動サービスとか、ドローン——物流とか災害で使われるという意味ですが、あと、転職しなくても移住ができる時代になってきました——テレワーク、こういったことが挙げられます。

山田伸幸委員 会議規則なんかの縛りもあるかもしれませんが、今後の方向性として、リモート会議が議会の中でもできるのではないのかというふうに思っています。本会議はなかなか難しいかもしれませんが、委員会とか研修会といったものは、活発にリモートでできるような体制づくり、そのためには予算も取って、機器もそろえていかななくてはいけない。そういったことは議会としてやっていくべきではないのかなと思います。残念ながら議会報告会についても、感染ということだけでできなくなっている。それがここから全市民に向けて訴えられるような、議会としての今の取組を説明できるような、市民はスマホかパソコン、タブレットがあれば視聴できるような形であれば、中止ということにはならなかったのではないかなというふうに思うんです。そういった意味で、そういうシステムづくりをしていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 リモート会議については、まだ本市議会では導入していないので、それについても研究する必要がある、協議会レベルでは実施できるかなと思うんですけれども、（発言する者あり）研修会は確かにありましたね。リモート会議については、執行部は移動の面とかを考えながら、機材も購入しましたし、それなりの金額を掛けて買いましたよね。そういう取組は、執行部ではされていますが、積極的かどうかと言うと、まだまだなところはあってもいいかもしれません。そういうところを進めている中で、議会としても進めていく必要があるかもしれません。対市民サービスとしても、リモートを使っただけの情報提供というのも、子育て支援のところでも対面でやられているところもあるんじゃないですか。相談とか、たしか何か聞いた気がします。保健師との対面とか、民福でどんな話が

ありましたか。（発言する者あり）やっていないですか。

山田伸幸委員 子育て支援で言うと、まだ山陽小野田市ではできていないんですけど、出産したばかりで出歩くことができないというお母さんが、保健師と自宅で相談をリモートでするというのをテレビでやっていたのを見ました。それぐらいは、すぐにでもやろうと思えば、お互いにそういう環境があれば、あるいは市がそういうのを持って、出産したばかりのお母さんに貸し出して、何かあったときは、すぐこれで呼び出してくださいというような形を取れば、自宅に居ながら安心して子育てができるんじゃないかなと思います。赤ちゃんを連れて保健所まで行くというのはなかなか大変で、そういったことも可能になってくるんじゃないかなと思います。

恒松恵子副委員長 子育て世代の相談が、ネットで画面を通じてできるというのは、家を片付けたりする手間もないので、本当にいいシステムかなと思います。

伊場勇委員長 リモートというデジタル技術を使っての可能性について、こうしたほうがいいじゃないかという提案もありましたけれども、基本的にこの委員会は調査研究も行いますが、しっかり提案をして、実施に向けてどう取り組んでいくかというところも、予算の面、そして法的な要綱、規則、条例とかもしっかりと整備して進めていく必要があると思います。新たな常識を作るような形を、我々がリーダーシップを取っていかなくてはいけないと思うんで、学ばなくてはいけないところもありますし、チャレンジするところもあるかと思いますが、そのところについて、まず課題というところを出してもらいました。もうちょっと市民サービスのところで、例えば情報の取り方ですね。LINEアカウントを、本当は今年度にやるはずが、できなかったじゃないですか、LINE本体のサーバーの関係で。そういった情報提供、情報収集、市民がどういった情報を取るかというところについても、デジタル化というのが

役に立ってくるのかなと思います。例えばそこにLINEアカウントが、
どういったパフォーマンスを見せてくるのかなというところがあるんで
すけど、その点について、市民が市の情報をどうやって取っていて、生
活にどう生かしているのかというところは、少し議論が必要かなという
ふうに思うんです。情報をどう処理するかというのがデジタル化の一つ
の大きな役割だと思うので、それについて、皆さんの御意見があればお
聞きしたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。

恒松恵子副委員長 市民の情報収集は、まずホームページを見ると思
うのですが、私たちがよく分かっていないのは、ホームページのどのページに
一番アクセスがあるかです。アクセスの少ないところの事業を進めても、
活用がうまくいかない可能性もありますから、まずどこのページを
市民が見ているか、そのページのサービスをどのように集中していくか、
そういう考えも一つかなと思います。ホームページにおいてはです。

伊場勇委員長 年代によっては広報紙を読む年代、読まない年代があると思
うし、皆さんホームページを見るんですか。(発言する者あり)なるほど。
ごみ収集とかですか。そういったところの情報をもっと取りやすくする
ために、デジタルは必要なんじゃないのかなと思うんですけど、他市の
取組等や課題、解決策とかもあるんであれば、今日はちょっとざっくば
らんに話したいところもあったんで、お願いします。

山田伸幸委員 あんまり行政への監視ばかりが先走って、まず議会が何に取り
組むかというのが遅れてはいけないと思うので、今日はこの部分を余り
掘り下げないほうがいいんじゃないかなと思うんです。それより、まず
議会として取り組むべきことを話し合ったほうがいいんじゃないかなと
いうふうに思います。

藤岡修美委員 同意見です。今までの議論を整理すると、行政のデジタル化と
議会のデジタル化が錯そうしていると思います。今までの議論を集約す

ると、まずタブレットの導入によって、ペーパーレスに持っていくというのは、皆さんの共通意見ということで確認した。最初に私が言った取手市の取組なんですけども、オンラインでの委員会、本会議の開催まで目標にしていくのか、そこはまだちょっと検討課題で終わっているんですけど、検討課題のまま置くのか、その辺を整理して、行政のDX化と議会のDX化、本市議会のDX化を分けて考えていったほうが整理できるのかなという気がします。

伊場勇委員長 今の意見としては、議会は議会として進めるデジタル化があって、行政サービスは行政サービスで進めるデジタル化があって、議会と執行部が一緒になって進めていくデジタル化というのものもある。三つの考え方でやっていこうというのは、私も同意見です。そういったところで進めていきたいなというふうに思いますが、よろしいですね。

山田伸幸委員 今の件で事務局にデータ集めをしていただきたいんですが、県内のタブレット導入と、どの程度の予算、どういうシステムでやられていたかというのを調査していただきたいなというふうに思います。できたら次回の会議ぐらいにその一覧表を見て、いずれどこかの場面で、よさそうなところを見させていただくというふうなことも必要かなというふうに思います。

伊場勇委員長 分かりました。具体的な提案もありましたが、まずは課題の話をしたときに、やはりペーパーレスというところとリモートの活用ができないかというところに取り組んでいくべきじゃないかという課題について、まずはタブレットを一つのツールとして使っていきべきだというところがあります。まずは特別委員会として、議会のペーパーレス化を進めること。そうしながら、行政サービス、市民サービスに向けて、ペーパーレスについても協議しながら提案をしていくというような方向性で、まずはペーパーレスというキーワード、それにリモートという要素も踏まえながら進めていくというような方向性で進めたいと。今の意見

をまとめて言うと、そういうことかなと思うんですけど、進め方としては、それでよろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり)分かりました。それに付随して、山田委員から意見がありました。県内のタブレットの導入状況、使用状況等を含め、そういった情報も必要かというふうに思います。その点について、そういう表があるかどうか、提出できるかどうかというところも事務局からお願いします。

島津議会事務局次長 今ちょっと手元に資料がありませんので……

伊場勇委員長 次でもいいんですよ。情報が出せますかというところです。

島津議会事務局次長 各市の状況は出せると思いますので、調査したいと思います。

伊場勇委員長 次の委員会までには出せますか。

島津議会事務局次長 調査します。

伊場勇委員長 お願いします。タブレットの導入について調査していくということですね。

山田伸幸委員 提案なんですけど、せめてこの委員会が率先してペーパーレスを実現するためにも、次の委員会ぐらいからパソコン若しくはタブレットを持ち込んで、そういう資料等を全部それに入れてくる。それを基にして協議をするというのはどうでしょうか。

伊場勇委員長 山田委員から意見がありましたけど、皆さんどうですか。

藤岡修美委員 なかなか難しいと思いますけど、挑戦したい。

恒松恵子副委員長 事務局にお願いしたいのは、ここで見る資料を事前に頂いていたら、パソコンにダウンロードしてきます。残念ながら、ここにはW i - F i 環境がないので、資料の送付は早めをお願いしたい。

伊場勇委員長 事務局に確認しますが、委員会にパソコンの持込みは駄目とかいう要綱はないですよ。持ってきても問題はないですよ。

島津議会事務局次長 会議規則に禁止する項目はありません。

伊場勇委員長 今まで持ってきた人もいらっしゃるということですよ。

山田伸幸委員 以前、議会基本条例の制定委員会的时候には、持ち込んで、よそのデータだとか、自分のところで作り上げている検討資料等を持ち込んで、それを見ながら協議したことがあります。その際には、委員会で決定をした上で、そういったことをやっておりました。

伊場勇委員長 我々がデジタルについては、しっかり取り組んでいかななくてはいけない。チャレンジする一つとして、パソコンを持つての委員会を今から進めていきたいかなというふうに思っています。皆さん、ノートパソコンをお持ちですよ。大丈夫ですよ。（「はい」と呼ぶ者あり）そういうところから、しっかり汗をかいていけたらなというふうに思っています。今日、私は持ってきましたが、やはりネット環境がないと、USBを差してやっているんで、打ち込みながら進めるのもいいかなと思うんですよ。やってみなくては分からないところがありますが、僕のパソコンは、打ち込む音が余りしないやつなんですけど、かちゃかちゃ音がするパソコンでも、慣れてしまえばいいかなというふうに思っています。（発言する者あり）やってみましょう。データについてはできるだけUSBに落とすなり、そのままパソコンにダウンロードしておくなり、そこはちょっと、（発言する者あり）山田委員、発言は手を挙げてお願いします。

山田伸幸委員 みんなが共通にそこで開けるような会議システムがあれば、それを導入して、それを共通で見ながら、何ページのこの部分というふうにできるんですけど、事前に研究して、いいのがあれば、お互いに提案していけたらいいんじゃないかなと思うんです。

伊場勇委員長 それについてはネット環境がないと、すぐアップロードもできませんし、共有もちょっと難しいかなというふうに思うんです。（発言する者あり）ダウンロードして、スクロールで見られるように、なるほど、優秀なフォルダというか、そういったイメージでいいんですかね。そういうところは、余りばらつきがないように、ネット環境があればできることが増えますけど、今はないので、それに使ってみると、やっぱりネットは要るよねとなるかもしれませんし、分かりました。

山田伸幸委員 どうしても必要であれば、スマホを持っていれば、テザリングという手もありますので、それでもできると思います。

伊場勇委員長 次の委員会は、パソコンを持ち込んでということになります。準備をお願いしたいと思います。今までは課題と方向性、そして具体的な取組について、タブレットと委員会のペーパーレスへの積極的な取組というところはまとまりました。

白井健一郎委員 私もノートパソコンを持っていますし、次は持ってきます。ペーパーレス化は確かに大切なんですけど、メリットもありましたよね。私は10月議会と12月議会しか出ていないんですけど、今日必要なことは全部机の上に置いてありますから、ぶっちゃけた話、資料を忘れても何とかなるわけですし、このデジタル化にどれだけついていけるかというのが、年齢によっても差があると思いますし、私は若いほうではあるんですけど、普段の仕事でデジタル化とは縁遠いことをしていたので、ちょっと自信がないんですよ。そこで、競争し合って突っ走るというの

も一つのやり方ではあるんですけど、もともとデジタル庁も言っているじゃないですか、一人も取り残されないような社会を作りたいと。ここは皆さんお互いに寛容の精神を持ってということをご提案したいと思いません。

山田伸幸委員 それは、そうせざるを得ないんじゃないですか。もう議会全体が取り組んだときに必ずそうなりますよ。手取り足取りしなくてはいけない部分。それから誰にも言われず、自分でできる人もいるし、それはそれで、それでもそういった形で進んでいかないと、それこそ世間に取り残された議会になっていくんじゃないかなと思います。デジタル化では後じんを拝しているわけですから、その辺では、様々な形で進めていかなくては、問題点の把握もなかなかできてこないと思いますので、デジタル化推進特別委員会としては、チャレンジ精神で行くというふうにしなないと、進んでいかないように思います。

伊場勇委員長 白井委員がおっしゃったデジタルディバイドに対しても考えながらやっていかなくてはいけない中で、難しいところも相談しながらやらないと、100%自信を持っている人はいないと思いますし、その中で取り組まなくてはいけないというところで、少しハードルが高い部分は、それぞれ持っていると思います。そこはフォローし合いながら、できる限りの範囲を広げていくようなイメージで、少しずつでいいですから、いきなりは難しいと思うんで、そこは相談しながらやっていければと思います。白井委員も、絶対こうでなくてはいけないみたいなどころはないから、安心してください。

山田伸幸委員 まず、取っ掛かりとして、資料を一元化してもらって、事務局は大変でしょうけど、それで同じページを見られるような工夫をしていただきたいと思います。取りあえず全てのページをPDF化して、ダウンロードしていただければいいというふうな形でいいんじゃないでしょうか。

伊場勇委員長 一元化については、正副委員長と事務局で分かりやすい形というのを少し、デジタルのフォルダを作って、そこで見やすくして、ページ数を打つのかとか、その辺をちょっと検討させていただいて、次の委員会までには整備したいと思います。今までの話はいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）この特別委員会の目的として、調査と研究のところで視察を一つ入れたいなというふうに思っております。山口県とデジタル技術振興財団というところが、DXの拠点を山口市に造っております。Yベースというところですが、出来て間もないところですが、民間同士のデジタルの融合とか、行政だけのサービスじゃないところなんです、結構視察も入っていて、とても注目されている拠点施設ですので、そこに行ってみたいと思っております。もう一つは、市議会でのタブレットについて、山口市議会が導入されていますので、同じ山口市なので、市議会とYベースという拠点に行けたらいいかなと思っております。日時を調整したら、2月3日ということですので、こちらをバスで出て、回れたらいいかなというふうに思っております。もちろん、コロナの状況が結構ひどくなっていますから、東部みたいになれば、もちろん中止せざるを得ないかなというふうに思いますが、その辺の判断は任せていただいくとして、行くということは、皆さんに御了承を頂きたいなというふうに思っています。視察について、どうでしょうか。皆さん、異議なしということよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）異議なしということで、視察は進めさせていただきます。そのほかに全体的なことでもいいですが、もしあれば、意見を頂きたいですが、いかがでしょうか。

山田伸幸委員 議会事務局にお願いがあるんですけど、仮にタブレット導入あるいはシステム導入というふうになったときに、その予算がどの議会で通れば、今年度中にそれが実現できるのか、分かればお願いします。

島津議会事務局次長 来年度ですか。（発言する者あり）今年度はもう不可能だと思います。（「来年度」と呼ぶ者あり）当初予算では、まだどういったものを導入するかも分かっておりません。予算を立てるにしても、

まず、どういったものを、どういう感じで導入するかを決めないと、見積りすら取れないので、予算要求することすら難しいと思います。今から決めていくことになりますので、補正予算でできるかどうかは分かりませんが、例えば9月に補正予算が可決したとして、そこから入札等を行っていくとしても、9月決定の3月議会から仮導入ぐらいが最短ではないかと思います。これはあくまでも、執行部との調整も含めてうまくいった場合です。今、庁舎の工事等も控えておりますので、その辺の関係も出てくるかなとも思っております。議会事務局としてもタブレット導入は考えておりました、実施計画上は令和5年度に導入というふうに考えておりました、9月定例会後に、通常であれば予算要求等を行いますので、それまでにはどういった形で導入するのかを決定して、5年度の当初予算で要求するというのを考えておりました。それはあくまでも議会事務局の予定であって、委員会の決定を縛るものではありません。

伊場勇委員長 日程のことも出ましたが、できるだけスピード感を持ってやっていきたいなと思っておりますので、皆さんで協力してやりましょう。ほかにありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）いいですね。次回に向けてもいろいろありましたし、視察の予定も決まったんで、今からしっかり進めていくので、よろしくお願いします。それでは以上でデジタル化推進特別委員会を閉会します。お疲れ様でした。

午前11時40分 散会

令和4年（2022年）1月12日

デジタル化推進特別委員長 伊 場 勇